2020 年 1 月 6 日

内閣総理大臣　　安倍晋三　様
厚生労働大臣　　加藤勝信　様
沖縄北方担当大臣　衛藤晟一　様
総務大臣　　高市早苗　様
衆議院議長　　大島理森　様
参議院議長　　伊達忠一　様

〒151-0072　東京都渋谷区幡ヶ谷 1-23-14
日本同盟基督教団「教会と国家」委員会
委員長　柴田智悦

靖国神社秋季例大祭への真榊奉納等に対する抗議声明

私たち日本同盟基督教団「教会と国家」委員会は、靖国神社の秋季例大祭に合わせて安倍晋三首相、大島理森衆議院議長、加藤勝信厚生労働相が真榊を奉納し、衛藤晟一沖縄北方担当相、高市早苗総務相、および超党派の「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」の衆参議員 98 人が参拝したことに対して、以下の理由で強く抗議いたします。

１．抗議の対象とする事実

2019 年 10 月 17 日、靖国神社の秋季例大祭に合わせ、安倍首相は「内閣総理大臣　安倍晋三」の肩書で、また、大島理森衆議院議長、加藤勝信厚生労働相もそれぞれ真榊を奉納しました。そして、同日、衛藤晟一沖縄北方担当相は閣僚として約 2 年半ぶりに参拝し、「国務大臣　参議院議員　衛藤晟一」と記帳して玉串料を納め、「国のために命を捧げた方々に慰霊のお参りをした。日本の平和と国民の幸せを祈った」「どこの国にも、国のために亡くなった方々に対する慰霊の場があり、慰霊行事を行っている」と述べました。また、翌 18 日、高市早苗総務相が参拝し、「総務大臣」の肩書で記帳して玉串料を納め、「どの国でも国策に殉じられた方に敬意を表し、感謝の気持ちをささげることは普通だ。外交問題にしてはならないし、されるべきでない」と述べました。さらに同日、「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」に属する衆参議員 98 人（代理 67 人を含めると 165 人）が参拝し、会長の尾辻秀久元厚生労働相は、安倍首相が参拝しなかったことについて「台風被害の復旧作業を優先することがご英霊のお気持ちではないか」と述べました。

２．私たちの信仰の自由を侵害したこと

まず、「真榊」は神事における祭具としての供え物であり、首相や国務大臣等が一宗教法人である靖国神社に「真榊」を奉納することは、国の機関として神事に参加することを意味しています。また、閣僚が靖国神社を参拝し、国会議員が代理であろうとも集団で参拝することは、衛藤晟一沖縄北方担当相が「慰霊のお参りをした」と自ら述べているように、自覚的に「慰霊」という宗教行為を行なったのであり、「国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教的活動もしてはならない」、という憲法第２０条３項の「宗教的活動」にあたり、第２０条１項の特定の宗教団体が「国から特権を受け」ることにもなりますので、明らかな政教分離原則違反です。

かつて日本の教会は、国家に対する見張りの役割を怠り、国策としての侵略戦争と植民地支配に積極的に協力しました。さらに、神社参拝の強要に抵抗するどころか唯々諾々と従い、自ら偶像礼拝の罪を犯すのみならず、当時植民地とした国々のキリスト教徒に対する神社参拝の強要にも協力しました。私たちはそのことを悔い改め、二度とそのような時代を来させてはならないと考えています。ところが、再三の抗議にもかかわらず首相、閣僚、国会議員による靖国神社への真榊奉納や参拝が続くことは、靖国神社を国営化し、かつてのように神社参拝を「社会的儀礼」の名の下に国民に強要し、唯一の神である主だけを礼拝すべき、という私たちの信仰の自由を侵すのではないか、との危惧を抱かせます。

３．軍国主義復活の恐れがあること

過去の侵略戦争に対する反省から、日本国憲法は、平和主義を基本原則として採用し（前文第２段）、戦争と戦力の放棄を宣言しました（第９条）。しかしながら、特定秘密保護法・新安保関連法制等の法整備が近年行われ、２０１９年度の防衛予算は５兆円を超えるなど、日本は軍事国家化しています。それに加え、上記のような靖国神社に対する行為が行われ続けている状況は、今後日本政府が、過去の戦争を「アジア解放の戦争」「自存自衛の正義の戦い」と美化する靖国神社を国営化し、再び日本を軍国主義化させ、「英霊」として祀るための「戦死者」を生み出すのではないかとの危惧を抱かざるをえません。

かつて日本は、神社は宗教ではない、という神社非宗教論に立って、国民ばかりか侵略した国の人々からも信仰の自由を奪い、皇民化政策によって彼らの精神をも侵略し、日本の戦争に動員して命を失わせたのです。この国を再びそのような、人々から基本的人権を奪い、生命をも奪う戦争をする国にしてはなりません。

さらに上記のような行為は、アジア諸国に対しても危機感をつのらせることになります。実際、首相の真榊奉納や閣僚の参拝に対して韓国外交省の報道官は「侵略戦争の歴史を美化する靖国神社に日本の指導者らがまたも供え物を贈ったり参拝を強行したりしたことに、深い遺憾を表明する」と述べ、中国外務省の副報道局長は「靖国神社は日本軍国主義が引き起こした侵略戦争の象徴だ。日本政府は侵略の歴史を直視して反省する姿勢を遵守するように強く促す」と述べています。

首相や閣僚は、まずはアジア諸国に対する真摯な謝罪を表明し、それを態度でも示すべきです。上記のような行為は、その謝罪の言葉を無にするばかりか、一般市民による謝罪の努力さえもが水泡に帰すことになるのです。

以上の理由から私たちは、唯一の神である主を告白し、信仰の良心に基づいて平和を祈り求める者として、今回の首相、閣僚、国会議員らによる靖国神社への真榊奉納、および参拝に対して強く抗議します。

「あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない。」「あなたは自分のために偶像を造ってはならない。」「それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。」（出エジプト記 20:3〜5）

「彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない。」（イザヤ書 2:4）